

「けいはんな新世紀戦略プログラム」に基づく  
平成15年度の活動報告と平成16年度の活動方針（案）

## 平成15年度の活動報告

### 1. 総括

経済状況は好転しつつあるものの、各企業は施設の選択と集中を強化しており、本都市への企業誘致及び既立地施設の発展・強化については、依然予断を許さない状況となっている。こうした中、国の大規模中核施設である「国立国会図書館関西館」、「私のしごと館」の平成14年度開館に続き、平成15年度には「オムロン京阪奈イノベーションセンタ」、「CRLけいはんなオープンラボ」、「(株)呉竹)アートアンドクラフトデュオ」を迎え、文化拠点の形成、来訪者の大幅な増加等都市に活力を与える効果が多いに期待できる状況となった。また、新産業創出による本都市の活性化、関西経済の再生・国際競争力回復に寄与するため、平成12年度に策定された「けいはんな新世紀戦略プログラム」に基づき、立地環境整備をはじめとする各種プロジェクトの推進に関係機関と共に引続き取り組んできたところである。立地環境整備においては、けいはんなプラザ・ラボ棟からの初めてのベンチャー企業都市内自立となる「ウェスコム(株)情報技術研究所」、中堅・中小企業研究所である「三晶(株)中央研究所」の平成14年度開所に続き、平成15年度及び16年度当初に同じく中堅・中小企業の「研究開発型産業施設」等として「(株)ダイナミックツール」「(株)井上製作所」「(株)フォトン」が開所、また「(株)アスク」「(株)大阪冷研」「(株)伸和製作所」が立地決定し、「誘致対象施設の拡大の実現と、多様な主体の立地の前進が図られた。一方で「バイエル薬品(株)中央研究所」「キャノン(株)エコロジー研究所」はそれぞれの企業における施設配置見直し方針から平成16年度撤退を表明する等、立地環境整備を急ぐ必要性もますます高まっている。

情報ネットワーク推進については、地域共同利用ネットワーク強化に取り組んだ結果、平成16年3月に京都デジタル疎水NOCが学研都市に設置された。

交通基盤整備においては、平成15年3月の第二京阪道路一部開通に続き、平成15年8月の京滋バイパスの（京都第二外環状線）名神自動車道延伸や国道1号バイパスである油小路通全線4車線化等により、本都市が全国高速道路網と直接接続されるとともに、京都市内へのアクセスが大幅に改善された。

また平成17年度の京阪奈新線開業に向け、鉄道工事、関連駅前広場及び関連道路整備が着実に進行した。三山木駅前区画整理事業関連ではJR学研都市線高架に続き、近鉄京都線高架工事もまず北行き平成16年7月切替えを目指して進行中。JR木津駅前区画整理事業においては、16年7月に予定されている都市公団の都

市再生機構への組織・業務形態の変更を先取りする形で、公団によるコーディネート業務がスタートし、大きな成果をあげつつある。

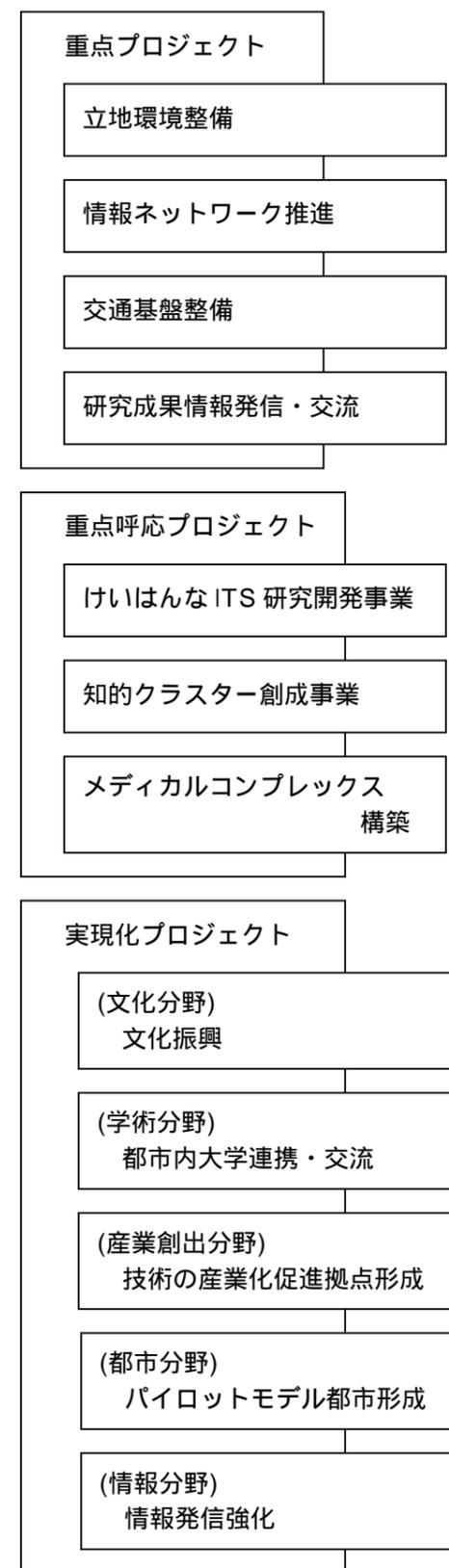
国の支援事業として、平成14年度に開始された知的クラスター創成事業「ヒューマン・エルキューブ産業創成プロジェクト」では、新産業創出に向けた多様な取り組みが行われ、事業化、公的プロジェクト採択、特許出願、技術移転等多くの成果をあげつつある。また融合型公共交通システム「けいはんなITS研究開発事業」の社会実験が関係者の協力・役割分担のもとに終了し、新交通体系確立のための利用実態把握、システム開発が行われ、多くの成果・知見が得られた。

また、平成14年度に緊急課題として取組まれた「構造改革特別区域計画」においては、知的人材の国際化と研究開発の国際化及び外国人、民間、大学の能力を活かした産業再生、校地面積基準引き下げによる大学誘致を目的とした「けいはんな学研都市知的特区」が認定された。また平成16年4月13日に都市再生本部において「少子高齢化社会に対応し、ロボットの活用期待が高まる中、大阪圏において安全・安心の確保等家庭・福祉等で活用され、生活支援に資するロボット産業の拠点を形成し、経済再生を通じた都市再生を図る」ことを目的に都市再生プロジェクトとして「大阪圏における生活支援ロボット産業拠点の形成」が決定され、当学研都市における3つの大学・中核研究所が拠点となる「研究開発機関」とされた。

さらに、「IEEE 医用生体工学会アジア太平洋会議」(23カ国)「APEC 環境技術交流バーチャルセンターワークショップ」(12カ国)等を開催し、本都市の国際的な拠点性の向上に期する取り組み等も行われた。

以下に、新世紀プログラム取り組みに関し、前半の重点プロジェクト、重点呼応プロジェクト、実現化プロジェクトの3本立てであった編成を今回見直すこととしたため、その再編成フローを示す「新世紀プログラム・重点プログラム見直しフロー」及び「平成15年度の取り組み成果」、「16年度の取り組み方針」を示す。

(新世紀戦略プログラム前半のプロジェクト編成)



見直しの基本的考え方

- (1) 「実現化を目指して」で掲げた 4 つの都市像  
文化創造・交流都市  
先端的学術研究都市  
新産業創出都市  
パイロット・モデル都市  
の実現を目標とするセカンド・ステージの後半 2 ヶ年の取組み及び取組指針であると共に、次期ステージにつながる取組み及び取組指針を目指す。(新世紀戦略プログラムが目指した「戦略性」の継承)
- (2) 学研都市プロジェクトの「総括と展望」及び、SSP と「新世紀戦略プログラム」の「到達点と評価」を踏まえる。
- (3) 新世紀戦略プログラム前半における事実上の 3 重構造(重点プロジェクト 重点呼応プロジェクト 実現化プロジェクト)を改める。
- (4) あるべき論で新しい重点プロジェクトを設定するのではなく、これまでの取組み成果として芽が出たもの、出つつある芽に依拠しながら、これらを育て上げる観点で、取組みを分野横断的にグループ化したパッケージとしてプロジェクトを編成し、新世紀戦略プログラム後半における取組み及び取組指針とする。
- (5) プロジェクトの推進は協議体としての事業推進会議(事務局: KRI)における方針提起と合意形成に基づく関係各主体の役割遂行を前提とし、KRI・KHN の連携による運営を想定する。

パッケージ 1.  
**技術の産業化・高度化拠点形成プロジェクト**  
知的クラスター創成事業、「(仮称)新産業育成協議会」  
立地環境整備(産業集積/ベンチャーレジ計画/施設利用転換・利用サイクル対策)  
技術の産業化促進拠点形成(生活支援型ロボット産業拠点形成/産業集積地域との連携/テストングフィールド整備)  
包括的窓口機能整備(けいはんなコネクト)

パッケージ 2  
**都市の総合力強化・情報発信強化プロジェクト**  
文化振興(デジタル文化発信/地域文化活動/国会図書館等連携・活用/立地機関による地域の子供達への文化・教育活動/プリマベラ・オータムフェスタ)  
都市内大学立地機関連携(6 大学連携市民講座/TBI 技術セミナー/「知の発信」公開講演会/サイエンス・メディエーター研究実態調査/知的特区拡充・活用/学術成果の発信/メーリングリスト/トップカンファレンス/各種交流会/都市視察会)  
地域共同利用ネットワーク/ITBL 構想推進/NICT 支援  
パイロットモデル都市形成(環境資産を活かしたクラスター整備/フィールドミュージアム/単位行政・地域住民・市民との連携強化/多様性、活気に満ち風格あるまちなみ)

パッケージ 3  
**交通基盤整備促進プロジェクト**  
京阪奈新線開業対応等(鉄道、駅前広場、アクセス道路/バス路線再編強化/JR 大阪外環状線部分開業活用/近鉄三山木高架・駅周辺整備、祝園駅・木津駅周辺整備)  
重点 3 路線整備促進、学研都市連絡道整備促進

特定プロジェクト  
**(仮称)メディカル・コンプレックス形成プロジェクト**  
都市再生プロジェクト「大阪圏におけるライフサイエンスの国際拠点形成」「生活支援型ロボット産業拠点形成」との連携、都市内研究開発資源との連携  
肝臓等「高度先進移植医療センター」構想を軸とした都市づくり

(当面は、KHN・KRI の業務見直し・連携強化を中心に検討)

パッケージ 4  
**推進体制整備検討プロジェクト**  
中核運営機関(KRI・KHN)の業務見直し・連携強化  
事業推進会議体制の強化、要望活動との連携強化

## 2. 重点プロジェクトの取り組み成果

### (1) 立地環境整備プロジェクト

#### 立地環境整備の具体化

- ・「研究開発型産業施設」2社（㈱ダイナミックツール、㈱井上製作所）が、精華・西木津地区「文化学研究ゾーン」において平成16年1月及び4月に開所。
- ・津田地区においては、誘致対象施設の拡大に向けた用途地域変更をはじめとする手続きが終了し、「㈱アスク」及び「㈱伸和製作所」の立地が決定したほか多くの企業から引合いがきている。
- ・京都府では、学研都市域の研究シーズを活用した中小企業と大学等との共同研究に補助を行う「けいはんな新産業フロンティア創出事業」が、平成15年度に創設された。

#### ベンチャービレッジ計画の具体化

- ・「(仮称)ベンチャー・テクノエリア」のモデル的取り組みである「ベンチャービレッジ計画」に関する研究会を立ち上げ7回にわたり関係者間の意見交換を進めた。また制度・施策面での支援策について検討・整備中。

#### 外資系企業、中小・ベンチャー企業誘致の取り組み強化

- ・関係機関連携による「IJSP(対日投資招聘事業)」「けいはんな都市視察会」を実施したほか、「ベンチャーエキスポ2003」「中小企業テクノフェア2003」など都市外の展示会に積極的に出展し、PR活動を展開した。

#### ベンチャー支援の展開

- ・「京都府けいはんなベンチャーセンター」に平成13年度設置済みの8室の募集を実施(応募24社)、現在29企業が入居。けいはんなベンチャーセンターからは13社が卒業し、内7社が事業継続。
- ・㈱けいはんなの独自支援策として、低賃料設定、ハーフルーム設置(4室)を平成14年度に行い4社が入居した。
- ・津田地区「津田サイエンスコア」内にインキュベートルームが4室開設され全室にベンチャー系企業が入居。

### (2) 情報ネットワーク推進プロジェクト

#### 地域共同利用ネットワーク(精華・西木津地区)の強化

- ・アクセス組織(国際高等研、RITE、ATR、精華町、大川センター等)を中心として、他組織(国立国会図書館関西館、日本原子力研究所研究所関西研究所等)また京都府等と安定したネットワーク環境整備について協議してきた結果、平成16年3月京都デジタル疎水NOCが学研都市に設置された。
- ・基幹回線の確保、デジタル新聞ニュースビューの無料配信実験、国立国会図書館WARPへコンテンツ提供を実施した。

### 日本原子力研究所 ITBL 構想の推進

・14年度の日本原子力研究所関西研究所 ITBL 棟運用開始に続き、平成15年6月当財団法人も協力・支援してきたCRLけいはんなオープンラボ研究所が開所した。また平成16年4月CRLとTAOの組織統合・改編によりNiCTがスタートした。

・「けいはんな ITBL 技術普及・利用動向調査委員会」がスタートした。

### 高度通信実験用ネットワーク(ギガビットネットワーク)の利用促進

- ・近畿次世代高速ネットワーク推進協議会等と連携して、超高速通信実験用回線の利用促進に向け公募説明会、セミナー、視察会を開催してきたが、平成15年度で当初目標を達成。この5年間でけいはんなTAOでは、視察727団体(7,954名)学会発表総数19件、論文採択件数10件、特許2件、公募説明開催回数15回の成果が得られた。

## (3)交通基盤整備プロジェクト

### 交通基盤の整備

・平成15年3月の第二京阪道路一部開通に続き、平成15年8月京滋バイパス(京都第二外環状線)が名神高速に直結したことにより、学研都市から全国高速道路網に接続されるとともに、国道1号バイパスである油小路通が全線4車線化されたこと等により、京都市内へのアクセスが大きく向上した。

・平成14年度に国立国会図書館関西館等の開館に合わせたアクセス向上のため、山手幹線及び精華大通り線の精華町役場前から精華学研ICまでの4車線化に続き、祝園駅前区画整理事業の進捗により、祝園駅前線及び駅前広場の工事が進捗。

・平成14年度に高山地区関連道路の都市計画決定がされたことにより、今後の整備促進が期待される。

・平成14年度に木津南地区～高の原駅直通バス、木津町巡回バスが運行開始されたため京都方面並びに木津町域内のバス利便性が向上した。

・平成16年4月に高山サイエスタウン線の最寄り駅が近鉄山田川駅から急行停車駅近鉄高の原駅へ変更され、乗継ぎ改善が図られた。

## (4)研究成果情報発信・交流プロジェクト

### 「けいはんな研究論文抄」のホームページ掲載

平成14年度は都市内研究7機関から推薦のあった40編を「けいはんな研究論文抄」としてまとめ、学研推進機構ホームページに掲載し、5,000件以上のアクセスがあった。(平成15年度版作業中。)

### 国際シンポジウム等の誘致

「IEEE 医用生体工学会アジア太平洋会議」(23カ国、210人)「APEC 環境技術交流バーチャルセンターワークショップ」(12カ国、30人)「国際ナショナルワークショップオンアコースティックエコー&ノイズコントロール」(10カ国、100人)等を開催し、本都市の国際的な拠点性の向上に期する取り組み等も行われた。

### 3.重点プロジェクトに呼応して取り組む国の支援事業並びに国の支援事業として導入を目指す取り組み

#### (1)融合型公共交通システム「けいはんな ITS 研究開発事業」

○5 ヶ月間の社会実験を実施し、利用実態把握、システム開発、事業化に向けたサービス・システム開発等多くの成果・知見が得られた。  
デマンドバスは、合併市町村運行サービス、路線バス廃止代替サービス、自治体内施設バス統合サービスなどの導入可能性が見えてきた。  
今回開発した C-car は京都大学において事業化のための研究継続を目的に移管され、キャンパス間移動の全国モデルを目指すこととなった。

#### (2)知的クラスター創成事業

平成14年度に「事業推進本部」が発足し、都市内3大学を中心とする個別プロジェクト会議もスタート。ここ2カ年で商品化2件、大学発ベンチャー3件、技術移転4件、特許出願件数国内63件、海外6件、公的事業化プロジェクト採択6件、プロタイプ開発21件(H15年度)など広範囲に大きな成果が出始めている。

#### (3)関西文化学術研究都市メディカルコンプレックス構築プロジェクト

大阪圏ライフサイエンス推進協議会において、「関西圏におけるライフサイエンスの国際拠点形成基本構想」の中で、関西圏ライフサイエンスの国際拠点を形成するプロジェクトとして位置付けされた。平成15年度には「ウイルス性肝炎治療」と「肝臓移植」を中核とする「肝臓疾患先進医療センター」構想に構想内容を特化し、経済収支計算を実施。平成15年度厚生労働科学研究費補助金が厚生労働省ミレニアムプロジェクトの一環として認められた。また、ドナー開発の普及・啓発と本プロジェクトへの社会的認知を広げることがを目的に「臓器移植セミナー」を開催した。  
奈良先端科学技術大学院大学、同志社大学、原子力研究所などを中核とする従来からの医薬工連携の動きに加え、同志社大学・京都府立医科大学の提携、平成16年春の同志社女子大学薬学部着工等のように、より広い範囲での生命科学分野としての拠点形成の動きも出てきている。

#### 4. 分野別実現化プロジェクトの取り組み

##### (1)文化振興プロジェクト（文化分野）

###### 新しいデジタル文化振興事業の実施

- ・ 芸術と先端技術を融合した新しいデジタル文化の拠点を目指し、2001年に開始した「メディアコンサート」を中心に、ワークショップ、インスタレーションを併設した「けいはんなメディアフェスティバル2003」を開催。

###### 地域文化活動の活性化

- ・ 「ラ・プリマベラ2003」（参加者175千人）、「オータムフェスタ2003」（参加者267千人）等の自治体、立地施設、NPO法人等と連携したイベントや「けいはんなプチコンサート」（49回、28千人）等の自主イベントを実施し、地域文化活動の活性化を図った。

###### 「国立国会図書館関西館」「私のしごと館」の活用事業

- ・ 「国立国会図書館関西館」の活用強化のため、情報交換等を行うと共に「私のしごと館支援協議会」に参画し、活用促進に努めた。

##### (2)都市内大学等連携・交流モデルプロジェクト（学術分野）

###### 「市民公開講座」の実施

- ・ 学研都市内6大学による「市民公開講座」（各大学1講座）を開催し、都市内大学と地域住民との交流・連携の場として好評を得た。

###### TBI技術経営セミナーを開催

- ・ 同志社大学マネジメントスクールと共催で同大、神戸大、東大、UCバークレ、ケブレッジ等の教授陣により開催。参加25社、28名。

###### 「知の発信」講演会開催

- ・ 5月、10月に開催し合計540名が参加。

###### サイエンスメイメーカー制度推進調査を実施(15,16年度の2カ年調査)

##### (3)技術の産業化促進拠点形成プロジェクト（産業創出分野）

###### 周辺地域との産学官交流会の実施

- ・ 同志社大学、大阪電気通信大学、奈良先端科学技術大学院大学を中心とし周辺地域との技術高度化支援のためのネットワーク構築を目指した産学官交流会の実施チャンネルが増加し、新産業創出に向けた取り組みが拡充がされた。

#### (4)パイロットモデル都市形成プロジェクト（都市分野）

##### けいはんな・フィールドミュージアム・ウォークの実施

・「けいはんなフィールドミュージアム構想」の実現に向け、市民参加と都市域行政共同の地域イベント「けいはんな・フィールドミュージアム・ウォーク」の定着化に引続き取り組み、市民と行政の参加の幅を拡大した。

##### 環境資産を活かした新しいクラスター整備の推進

多様性と活気に満ち、かつ風格のあるまちなみ景観

人にやさしい環境づくり

以上3つの活動にも拠点地区を中心に取り組んだ。

#### (5)情報発信強化プロジェクト（情報分野）

##### インフォメーションボックスの拡充

・登録会員数は800件と横ばいであるが、配信数は目標の180件を達成し、都市内の研究者・住民間の情報の迅速な流通、共有化が図られつつある。